



安心して住めるまちを目指して 地盤補強の対策工法が出揃う

里塚に続いて美しが丘地区、靈園隣接地区でも着工へ

清田区は2018年9月6日の北海道胆振東部地震で、里塚地区と美しが丘地区、清田中央地区などで、地盤の液状化などにより大きな宅地崩壊が発生しました。里塚地区で昨年6月から札幌市の地盤改良工事が始まったのに続き、今年は美しが丘地区と里塚靈園緑地帯隣接地区でも札幌市による地盤強化工事が始まります。

清田区の大きな宅地被害は主に、里塚地区、美しが丘地区、靈園緑地帯隣接地区、清田中央地区の4カ所で起きましたが、清田中央地区を除いて対策工事が出そろったことになります。

■里塚地区

里塚地区（里塚1条1丁目、同2丁目）は、全壊約60棟を含む500棟超の建物被害が発生しました。全壊の建物はほとんど解体され、更地になつた宅地では今冬、雪降る中でも地盤強化工事が続けられました。

札幌市によると、約4ヘクタールの範囲で個人所有の宅地部分に薬液を注入して液状化が起こりにくい地盤にする工事です。これは3月中に終える予定です。

4月以降は地区内の道路（市道）に暗渠管を埋設し地下水を排水するシステムを構築する工事を行います。薬液注入で地下水が上がる恐れがあるため、液状化が起こりにくくように地下水位を下げるそうです。

現在、地盤強化工事の基地として使われている里塚中央ぼぶら公園をどうするか、今後検討して令和3年度に対策をするそうです。

■美しが丘地区

美しが丘地区（美しが丘3条6丁目、同1条7丁目、同2条7丁目）は、160棟の建物被害が発生しました。

当初、札幌市は地盤強化工事を里塚地区のみ行う方針でしたが、地元の羊ヶ丘通町内会と美しが丘南公園町内会から「不公平ではないか。こちらも建物が傾いて住めなくなった被害があるのに」といった声が上がり、市も対策工事を検討するようになりました。

その結果、美しが丘地区では、里塚地区のような宅地の地盤改良は行わないものの、地域内の道路に地下水を排水する暗渠管を埋設する工事を行うことになりました。地下水位を下げて液状化を起きにくくするそうです。

昨年12月15日に開催した地元説明会で両町内会とも、市の対策工事を了承しました。工事は今年2020年6月ごろから開始し、来年3月までに終える予定です。

■里塚靈園緑地帯隣接地区

里塚靈園緑地帯隣接地区（美しが丘5条9丁目）は、「全壊で避難が必要」6棟、「地盤沈下や家の傾き」21棟、「軽い被災」9棟の計36棟の建物被害が発生しました。

この地区は、里塚靈園緑地帯に沿った住宅街で、緑地帯は宅地より概ね3メートルほど低いくぼ地のようになっています。被災した住宅は、緑地帯のくぼ地に引っ張られるように傾きました。

この地区も南美しが丘町内会が札幌市に要望書を出すなど声を上げ、ようやく札幌市も対策工法を検



▲美しが丘地区の里塚循環道路。この道路両側地域で建物と道路、公園の被害が集中した。かつて三里川支流が流れていたが、今は埋め立てられ道路の下は三里東排水（暗渠河川）となっている=1月23日撮影

討し、まとめました。

市は、「宅地と緑地帯の高低差が原因で、地震で宅地が緑地帯側に地滑りした。液状化が起きたわけではない」と分析。くぼ地（緑地帯）を盛り土して、宅地とくぼ地の段差をなくす工法を地元に提案しました。緑地帯は靈園敷地の一部で、市が所有・管理する土地です。

地元の南美しが丘町内会は昨年12月8日に開催した地元説明会で、この市の対策工法を了承しました。盛り土工事は今年6月に開始し、11月ごろまでには終える予定です。

ただ、里塚靈園緑地帯のくぼ地は、かつて三里川支流が流れていたところで、宅地造成した昭和59年～60年（1984年～1985年）に埋め立てられた緑地帯になりました。三里川支流は埋め立てにより暗渠河川（三里東排水）になりました。

地元住民によると、このかつて三里川支流があった靈園緑地帯は、2018年9月の地震で25センチ～30センチ沈下したそうです。「ここも液状化があったのではないか」といった意見が聞かれます。

■清田中央地区

この地区も清田7条2丁目、同3丁目、そして清田中央通・清田真栄通沿いで、建物被害や地盤のずれなどが発生しました。液状化が起きたと思われます。

しかし、この地区的対策工事は決まっていません。清田中央通・清田真栄通は地区の商店街になっていますが、かつては清田川が流れていました。今は埋め立てられて暗渠河川になっています。



▲冬の間も地盤改良工事が続いた里塚地区=1月22日撮影



▲里塚靈園（左側）と住宅地（右側）の間にある緑地帯（くぼ地）。右側の住宅地が緑地帯に引っ張られるように傾いた。この緑地帯もかつては三里川支流だった。今は埋め立てられ三里東排水（暗渠河川）になっている。里塚循環道路の上流に当たる=1月23日撮影



札幌市が札幌市総合交通計画に「清田延伸の検討」を記載



札幌市は3月に策定する札幌市総合交通計画改訂版(2020年～2030年)に、「清田方面公共交通機能向上の検討」という文言を記載します。これは「地下鉄清田延伸の検討」を意味します。

札幌市は、現行の札幌市総合交通計画(2012年1月策定、2012年～2030年)の中間見直し作業を2018年度と2019年度の2年間で行ってきました。この中で地下鉄の清田延伸がどう扱われるのか、地下鉄東豊線建設促進期成会連合会(牧野晃会長)はじめ清田区民は大変、注目して推移を見守ってきました。

今回の見直しは市総合交通計画の後半(2020年～2030年)の計画を定めるものです。私たち清田区民にとって関心の高い地下鉄延伸については、「近年清田区において人口が減少しており、事業採算性などを勘案した慎重な検討が必要」という記述になります。

2012年策定の現行計画でも地下鉄延伸は「地域中心核で一定の需要が見込まれ、地下鉄延伸の可能性がある場合においても、利用者予測に基づく事業採算性などを勘案した慎重な検討が必要です」と記していました。

「事業採算性などを勘案した慎重

な検討が必要」という記述は基本的に変わっておらず、私たち地域住民にとっては引き続き待ちぼうけ状態であることに変わりはありません。

ただし、改定計画では「清田方面公共交通機能向上の検討」という記載が、初めて掲載されます。「清田方面公共交通機能向上」とは、いかにも役人言葉ですが、要するに地下鉄のことです。一部、バス等の補完的交通機関もあるでしょう。

さらに市は、この「検討」を早めにやるようです。計画は今後10年間を前期、中期、後期の3つに分け、「清田方面公共交通機能向上の検討」を前期に位置付けています。これは札幌市が招致活動を行っている2030年冬季五輪と関係しています。

札幌市交通計画課の浜岸俊也課長は昨年10月、清田まちづくりセンターに来て、清田区と豊平区の町内会連合会などでつくる地下鉄東豊線建設促進期成会に次のように説明しました。

「札幌冬季オリンピック・パラリンピックの招致に合わせて、札幌ドームから農業試験場方面の土地利用やまちづくりが大きく変わる可能性があり、その動向を見たうえで地下

鉄延伸は判断すべきと考えます。オリパラの動きは今後2年間くらいで明らかになっていく。それに合わせて将来需要や事業採算性を再検討していきます」。

地下鉄の清田方面の建設設計画は、板垣市長当時の昭和54年(1979年)にさかのぼります。その後、市は長期計画に清田方面への地下鉄建設を正式に載せ、市議会でも「清田方面延伸」を公言していました。それに期待して清田区に家を建て移り住んできた区民は大勢います。板垣市長の次の桂市長も2001年、札幌市総合交通対策調査審議会で検討し、清田延伸に向

て前向きの姿勢を打ち出しました。しかし、次の上田市長になって地下鉄延伸計画はぱたりと止まってしまいました。市は盛んに「30年間で総収入が総経費を上回らないと国の認可が下りない」という「国の30年基準」なるものを持ち出し、それがあたかも絶対的基準であるかのような説明をして「延伸は難しい」としてきました。

ところがどうでしょう。確かに、30年基準は一応の目安かもしれません、国(国土交通省)は「明文化したものはない」と明言しています。絶対的基準なんかではないのです。



事実、札幌市の東西線、東豊線は「30年間で総収入が総経費を上回る」ことはありません。両線とも膨大な累積赤字を抱えています。それでも「地域住民の交通利便性」や「地域福祉の増進」「地域の拠点形成・まちづくりのため」等の政治判断、政策判断があって地下鉄を建設してきたのではないでしょうか。

福住一清田間のみ「30年基準」を持ち出し、延伸不可という論理は、あまりに不公平でありませんか。清田区民として到底受け入れられるものではありません。

札幌10区の中で地下鉄もJRもないのは清田区だけです。札幌市は、

清田区役所や西友清田店などがある清田地域を「地域交流拠点」に指定し、そこを中心としたコンパクトなまちづくりを推進しています。そして市は、地域交流拠点として新さっぽろ、真駒内、清田など17カ所を指定しています。しかし、清田だけ地下鉄もJRの駅もないとために、一向に地域交流拠点が形成されません。

昔は農業試験場までが札幌というイメージでしたが、今はその先に清田区が開け、さらに北広島の大型商業施設などにつながっています。さらに、近年、清田区内の国道36号線と羊ヶ丘通の交通量は激増しています。新千歳空港の乗降客も増加の一途です。北広島、千歳方面を視野に入れた地下鉄延伸の位置づけが必要ではないでしょうか。地図を見ると、地下鉄が福住止まりというのは、いかにも中途半端の感が否めません。

地下鉄延伸は札幌市と清田地区のまちづくりに深く関わっています。一日も早い延伸の決定、これが清田区民の切なる声です。





今年も1月下旬、清田区内では「まちの灯り」が各地域で開催されました。スノーキャンドルとアイスキャンドルの灯りが、清田のまちを幻想的に演出しました。



まちの灯り
アイスキャンドルの小径＝1月31日、清田南小前

例年、規模の大きさと華やかさが話題になる「羊ヶ丘通地区スノーキャンドルフェスティバル2020」は1月25日(土)、美しが丘3条5丁目の「ほうけん公園」とマンション広場、歩道などで行われました。

羊ヶ丘通町内会と周辺のマンション自治会が主催したもので、今年で12回目でした。今年は雪不足のため準備する地域住民は苦労したようです。規模を縮小しての開催だったそうですが、それでも約1700個のスノーキャンドル、アイスキャンドルを配置し、見事な「おとぎの国」の風景を創り出しました。



羊ヶ丘通地区スノーキャンドルフェスティバル2020＝1月25日

清田南小学校前の歩道では1月31日(金)、「まちの灯り—アイスキャンドルの小径」が行われました。清田中央地区町内会連合会と清田団地商店街、清田南小学校が一緒になって取り組んだ行事です。ほかにも、真栄

中学校・真栄小学校、清田小学校、西友清田店前、平岡樹芸センターなどでそれぞれ「まちの灯り」が行われました。

「さっぽろ観光マップ」によくやく清田区が載る!

「ひろまる清田」の指摘で

札幌市経済観光局が制作、配布している「さっぽろ観光マップ」には長年、清田区が全く載っていませんでした。清田区にも少ないながら梅林で有名な平岡公園や平岡樹芸センターなどの観光スポットがありますが、全く無視されていました。

観光マップは、札幌ドームまでは載っていましたが、その先の本来、清田区があるはずの所には定山渓温泉と小金湯温泉の拡大地図がドーンと掲載されて、清田区はその下敷きになって隠れてしまい、全く記載されていませんでした。

「あんまりじゃないですか」と昨年3月に「ひろまる清田」のホームページで訴えたところ、札幌市も「申し訳ない」と思つたらしく、昨年夏の改定で、清田区が晴れて観光マップに載るようになりました。現在のマップには、平岡梅林公園も平岡樹芸センターも観光スポットとして記載されています。

「さっぽろ観光マップ」は札幌市の公式観光案内マップで、観光案内所や観光施設等で大量に無料配布しています。英語や中国語などの外国版もあります。



読み聞かせPaddy

英語と日本語の紙芝居サークル

3月7日、清田図書館で公演

日本の昔話を英語と日本語で読み聞かせするボランティアサークル「読み聞かせPaddy」(尾張正江代表)が、清田図書館を拠点に地域で活躍しています。

「読み聞かせPaddy」は2018年6月に発足。メンバーは代表の尾張さんをはじめ全部で4人。仲間をさらに募集中です。毎週1回、清田図書館で読み聞かせの練習を行い、2、3ヶ月に1回の割合で、清田図書館で「英語と日本語で昔話」の紙芝居と大型絵本の読み聞かせを行っています。紙芝居や絵本の絵を見せながら、尾張さんが英語で話し、すぐに他のメンバーによる日本語が入るのが「読み聞かせPaddy」のスタイル。効果音やBGMも使った本格的な紙芝居と読み聞かせです。

英語と日本語の入った台本、英訳は全部、尾張さんともう1人のメンバーが作ります。尾張さんは若いころ、アメリカに13年間滞在し、ボストンの保育園で保育士をしていました。この時、日本の昔話の紙芝居を

英語で演じたところ子供にも保護者にも大好評だったそうです。

日本に帰ってきてからは、英語の先生をする傍ら、アメリカ時代のことと思い出し、厚別区の小学校で日本の昔話「こぶとりじいさん」をやったところ、やはり大好評でした。これがきっかけとなって、尾張さんは「もっと多くの子どもたちに聞いてもらいたい」と、Paddyを立ち上げました。英語のレベルはそんなに難しくはなく、すぐ日本語も入るので子供も大人も楽しめる内容になっています。

次回公演は3月7日(土)14時～14時40分、清田図書館集会室で開催します。対象は小学生から大人まで。出し物は紙芝居「鶴の恩返し」と絵本読み聞かせ「ねずみくんのチヨッキ」です。2本とも英語と日本語で。読み聞かせPaddyの連絡先は、TEL090-1305-6413。ちなみにPaddyは「たんぽ」という意味の英語です。



▲読み聞かせPaddyの皆さん。中央が代表の尾張さん

地域の居場所 人のつながりをつくる お茶の間サロン ふらっと

清田区平岡の地域交流サロン「お茶の間カフェふらっと」(平岡10条1丁目7-1)は、地域の人たちが集まる「地域の茶の間」です。

2017年9月に今の一軒家の1階8畳間を借りてオープン。運営しているのは、NPO法人たすけ愛ふくろう清田(中村則夫代表)です。平日の10時~16時まで開設しています。

おしゃべりを楽しんだり、パッチワーク、絵手紙、ウタレ、オカリナ、押し花アート、スマホ・タブレット教え合いなどをしたりして楽しく

活動しています。

昨年9月には2周年を記念して、地域の仲間が集まり、「ふらっと」の軒先を会場に青空「うたごえ喫茶の集い」を開催しました。「うたごえ便



出来た! 押し花



地域サロン「ふらっと」前で「うたごえ喫茶の集い」=2019年9月21日

よりみち」の「よっちゃん」こと石澤佳子さん(豊平区)を迎えて、懐かしい青春時代の歌の数々をみんなで歌いました。

「お茶の間カフェふらっと」は、利用する仲間をいつでも歓迎しています。

す。利用料は1回200円。問い合わせは「たすけ愛ふくろう清田」(TEL 011-889-2960)。地域のつながりが希薄になっている昨今、「ふらっと」のような場はますます大事になっています。

清田区内のこども食堂 4カ所で開設 子どもから大人まで 地域交流の場に!

子ども食堂が全国的に広がっています。清田区内では、地域さん・ぽっけ(清田地区)、子リス食堂MogMog(北野地区)、ひらおか子ども食堂(平岡地区)、さとみ食堂(里塚・美しが丘地区)の4カ所が開設されています。

子ども食堂は、子どもの孤食防止

や子どもの居場所づくりから始まりましたが、今では子どもから大人までの地域交流の場になっており、地域食堂といった趣になっています。

清田区内のこども食堂・地域食堂は、地域のボランティアの人たちが運営を支えています。

- ・開催日 毎月1回
- ・時間 16時30分~18時30分
- ・対象 子ども~大人
- ・参加費 こども100円、保護者200円、一般大人500円
- ・運営主体 NPO法人たすけ愛ふくろう清田 (TEL 011-889-2960)

■さとみ食堂

- ・場所 里塚・美しが丘地区センター(清田区里塚2条5丁目1-1)
- ・開催日 每月1回(概ね第3土曜日)
- ・時間 12時~13時30分
- ・対象 子ども~大人、どなたでも
- ・参加費 こども100円(高校生以下)、大人300円
- ・運営主体 里塚・美しが丘地区センター (TEL 011-888-5005)



ひらおか子ども食堂

- ・場所 イオン平岡従業員休憩所(清田区平岡3条5丁目)

設備工事で休館の清田区民センター

3月1日から利用可! 郷土館は4月1日から(予定)

設備の改修工事で昨年8月13日から全館休館していた清田区民センター(清田1条2丁目)は工事が終了し、3月1日(日)から利用できるようになります。区民センターは、老朽化した冷暖房設備や照明・電気設備の改修工事を行いました。

区民センター2階の「あしりべつ郷土館」は、施設内的一部レイアウト

変更のため4月1日(水)に開館する予定で準備を進めています。



3月1日から利用できる清田区民センター

清田区内の5地区の町内会連合会

ホームページを見てみよう!

清田区内の5つの町内会連合会は、清田区ITボランティアの協力で、町連のお知らせや町内会と地域の動きを知らせるホームページの整備を進めてきました。清

田、清田中央、北野、平岡、里塚・美しが丘の5地区の町連ともホームページを開設しています。検索してご覧ください。QRコードからスマホで見ることも可能です。



清田町連



清田中央町連



北野町連



平岡町連



里塚・美しが丘町連



北野町連

ランティア団体・スポーツ団体主宰者、NPO法人職員、福祉施設職員、元町内会長、元会社員らで構成しています。全員が清田区民です。

ホームページは2016年5月にスタートし、日々、清田区の情報を区内外に発信しています。パソコンでもスマホでもご覧になれます。「ひろまる清田」で検索してみてください。スマホの方は右のQRコードからご覧になれます。

(代表・編集長 川島亨)



札幌市
さぼーとほっと基金
助成事業

ひろまる清田から読者の皆様へ

「ひろまる清田」新聞版は昨年2月の第1号に続いて、今回が第2号になります。普段は、インターネットのホームページで清田区の情報を発信していますが、今回は新聞版で地域の情報をお届けいたします。今回の新聞版は、清田区内に配達される北海道新聞に折り込んで皆様にお届けいたしました。

「ひろまる清田」は、清田区のボランティアグループ「地域メディアひろまる」(事務局:清田区北野2条3丁目11-16)が運営する地域メディアであり、清田区の元気を応援する住民メディアです。メンバーは元新聞記者、元NTT職員、大学教授、ボ